

日銀の視点

人手不足は深刻さを増しています。本県の12月の企業短期経済観測調査（短観）を見ると、人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」の割合を引いた雇用人員判断DIは▲41と大幅な「不足」超となりました。これはバブル期以来の人手不足感の強さです。労働需給の引き締まりが続けば賃金が上昇するのが経済学の教えるところです。事実、1人当たり名目賃金は振れを伴いつつも緩やかに上昇して

日銀地域経済
調査課長

島田 康隆

います。ただし、労働需給がバブル期並みの引き締まりを示していることと比べれば、賃金の上昇度合いは弱めにとどまっているとも言えます。企業の賃金設定スタンスはど

に公表しました。今回はその中から、企業の賃金設定スタンスについて紹介します。ポイントは大まかに二つあります。一つ目は賃上げの動きが広範にみられたという点です。特徴的だったのは「好調

の向上分を積極的に還元している先が多かったという点です。また「大型商業施設の進出を受けて、パート社員を係留するために時給を引き上げた」との声のように、人材の確保・係留のために防衛的な

きなどがみられました。背景には、人口減少に伴う需要の先細り懸念や急速な技術革新に取り残される不安があるなどの指摘が聞かれました。積極的であれ、防衛的であれ、賃上げの動きは広がっています。今後も労働需給の引き締まりが続けば賃上げの動きがさらに拡大していくとみられます。しかし、賃上げに慎重な一部の先が指摘する理由などを考慮すると企業行動の変化には時間を要する可能性もあります。春闘がどのようなかを含め、今後も賃金動向に注目していきたいと考えています。（第2土曜日掲載）

人手不足で賃上げ拡大

意味でも賃上げが必要との指摘も聞かれました。

日本銀行ではこうした問題意識に基づき、全国約2千先の企業などに聞き取り調査を行い、その結果を「人手不足のもとでの賃金動向と新たな給与体系の構築に向けた取り組み」というレポートで先月

な業績を踏まえ、継続的な賃上げを実施している」との声や「生産性向上に向けた取り組みが奏功しており、ベアや賞与の増額を実施している」といった声に代表されるように、企業業績の改善や生産性

二つ目は一部では賃上げに慎重な先もみられたという点です。地方企業や中小企業を中心に、先行き不透明感などから業績対比で賃上げ幅を抑制する動きや将来的な引き下げが難しいベアを回避する動

きなどがみられました。背景には、人口減少に伴う需要の先細り懸念や急速な技術革新に取り残される不安があるなどの指摘が聞かれました。積極的であれ、防衛的であれ、賃上げの動きは広がっています。今後も労働需給の引き締まりが続けば賃上げの動きがさらに拡大していくとみられます。しかし、賃上げに慎重な一部の先が指摘する理由などを考慮すると企業行動の変化には時間を要する可能性もあります。春闘がどのようなかを含め、今後も賃金動向に注目していきたいと考えています。（第2土曜日掲載）